

2025 年 10 月開催検定より、改訂後シラバスでの実施になります。赤字:追加項目 青字:構成見直しによる改訂(既存項目の章変更・名称修正等)

チャプター	大項目	中項目	キーワード
1	脱炭素経営の広がり	脱炭素経営の全体像	・脱炭素経営とは ・脱炭素経営の重要性 ・企業が取り組むべき脱炭素経営の位置付けとゴール ・脱炭素経営の手順
		脱炭素経営に関する国際動向	・CSR から SDGs・ESG 投資へ ・非財務情報開示の国際トレンド
		脱炭素経営に関する国内動向	・SSBJ 基準の概要 ・SHK 制度の概要と改正内容
2	気候関連リスク・機会の把握	気候関連リスク・機会の把握	・気候関連リスク・機会の把握とは ・気候関連リスク・機会を把握する意義 ・気候関連リスク・機会の把握の流れ
		ガバナンス整備	・気候関連リスク・機会のガバナンス体制 ・気候リスク・機会の管理プロセス
		リスク重要度の評価	・リスク・機会項目の列挙 ・事業インパクトの定性化 ・リスク重要度の評価
		シナリオ群の定義	・シナリオの選択 ・関連パラメータの将来情報の入手 ・ステークホルダーを意識した世界観の整理
		事業インパクト評価	・リスク・機会が影響を及ぼす財務項目の把握 ・算定式の検討と財務的影響の試算 ・成り行きの財務項目とのギャップを把握
		対応策の定義	・自社のリスク・機会に関する対応状況の把握 ・リスク対応・機会獲得のための今後の対応策の検討 ・社内体制の構築と具体的アクション、シナリオ分析の進め方の検討
		文書化と情報開示	・TCFD 開示項目とシナリオ分析の関係性の記載 ・各ステップの検討結果の記載 (事例紹介)
3	サプライチェーン排出量の概要	GHG プロトコル	・GHG プロトコルとは ・国内外の GHG 算定ルール（2025 年現在の改定状況含む） ・日本国内で参照可能な文書
		排出量算定の概要	・サプライチェーン排出量とは ・Scope3 について
		算定の原則	・算定目的の設定 ・算定範囲の確認 ・カテゴリの抽出 ・データ収集・算定
		算定結果の活用方法	・サプライチェーン排出量の活用方法
4	Scope1, Scope2の算定方法	Scope1,2 の基本的な考え方	・Scope1,2 の位置付け ・Scope1,2 の重要性 ・Scope1,2 の基本的な考え方
		Scope1,2 の算定方法	・Scope1,2 算定の流れ ・排出活動の抽出 ・活動ごとの排出量算定 ・排出量の合計・CO2 換算 ・算定の事例 (演習 4 問) ・Scope1,2 算定に関するよくある質問
5	排出削減目標の設定	削減目標設定の手順	・サプライチェーン排出量の算定／目標水準の決定
		SBT 概要	・SBT とは ・SBT の種類 ・コミットと認定 ・SBT 認定取得のメリット ・SBT の認定の流れ
		SBT 認定基準	・SBT 認定基準の概要 ・排出量算定の基本要件 ・具体的な認定基準 ・ケーススタディ
		SBT 認定状況	・世界全体の認定状況 ・日本企業の SBT への取組み状況
		中小企業向け SBT	・中小企業向け SBT の概要（2024 年 1 月改訂含む） ・中小企業による SBT 取り組み事例
6	排出削減計画の策定	現状把握	・事業環境変化の想定 ・排出に影響を及ぼすマクロ環境の変化 ・現状の GHG 排出量の可視化 ・今後の見通し整理 ・SBT 目標とのギャップ把握
		削減施策の検討	・削減の取組の検討順 ・短期／中長期の双方の視野 ・Scope1,2 の削減策検討
		削減施策の優先度判定	・削減インパクトの推計 ・実現可能性の評価 ・削減施策の優先度判定
7	削減対策の実行	削減の全体像	・削減の全体像 ・基本的な実行ステップ
		省エネの推進	・省エネが重要な理由 ・省エネの具体的なアクション ・省エネの進め方 ・省エネ事例 ・省エネ政策 ・省エネに関連する補助金
		再エネ電力の調達	・主要な再エネ ・具体的な再エネ調達手法 ・再エネ導入時の留意事項
		燃料・原料転換、新素材活用	・化石燃料からバイオ燃料への転換 ・再生可能資源を用いた製品材料の選定 ・環境に優しい新素材の開発と応用
		NETs・炭素除去	・ジオエンジニアリング ・Nets（ネガティブエミッション技術）の分類・定義 ・DACCS ・BECCS ・植林・再生林 ・バイオ炭 ・ブルーカーボン管理
		カーボンクレジット	・カーボンクレジットの基本 ・カーボンクレジットの分類 ・カーボンクレジットに関わる政策制度の動向 ・カーボンクレジットの創出から利用までのプロセス
		新規脱炭素ビジネスの展開	・脱炭素ソリューションの整理 ・ビジネス展開の事例